

これまでの取組状況

飯綱町まち・ひと・しごと創生総合戦略・飯綱町人口ビジョン策定 (平成27年10月27日)

産官学金労言及び住民、議会等の広く関係者の意見を反映した総合戦略を策定

11月2日(月)石破茂地方創生担当大臣、高市早苗総務大臣、前地方創生政務官小泉進次郎衆議院議員を峯村町長が訪ね、『飯綱町まち・ひと・しごと創生 総合戦略』の報告をしました。



石破茂地方創生担当大臣



高市早苗総務大臣



小泉進次郎衆議院議員

飯綱町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に関するコメント



石破茂(いしばしげる)ブログより抜粋 (平成27年11月6日)

「カネがない、時間がない、人がいない」という苦情を口にされる自治体もありますが、その中で「産・官・学・金・労・言」の総参加を得て、手作りで内容の充実した素晴らしい計画を立案して頂いた自治体、例えば長野県飯綱町の取り組みなどには本当に心が動かされます。

石破内閣府特命担当大臣記者会見より抜粋 (平成27年11月10日)

よく金がない、時間がない、人がいないというようなことを言われる方があるやに聞いておいりますが、例えて言えば、人口1万人程度と比較的が小さいのだけれども、高校生や大学生、女性を含む幅広い層のまちの方々を巻き込み、手作りで地方創生総合戦略を仕上げた、役場の職員の皆様方の取組も以前とは全く変わってきたというようなものがございます。これは長野県の飯綱町というところでございます。

主な取組紹介① 「ICTを活用した最先端農業への挑戦」

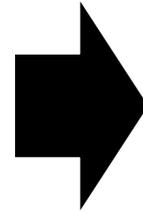
H28年3月までに、水田に5箇所、農場に8箇所のセンサーを設置
(うち3箇所は、気象センサーも設置)



最先端農業研究チーム

今後の展開

収穫予測
病害予察
土壌分析
食味分析
栄養・機能性分析
気象データ蓄積…



- ✓ 経験や勘に基づく農業から、**データに基づく農業へ**
(就農の間口を広げる)
- ✓ 六次産業化、ブランド化、
観光促進(インバウンドを含む。)
等へつなげる
- ✓ 「**儲かる農業**」の**基盤**を確立
- ✓ 美しい里山風景の維持・継承
→ 町への愛・誇り



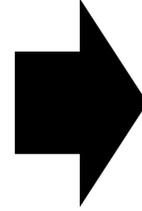
一般
財団法人 長野経済研究所

膨大な農業データを農地のセンサーで自動的に収集し、クラウド上でビッグデータ化。気候変動に対応した適地適作の実践、効率的で食味・栄養等に優れる安全な作物を栽培する方法の確立等の研究・分析を行う。

飯綱町のりんご農家とスマホゲームがコラボする

前代未聞のイベントを**渋谷ヒカリエ**で開催！

(平成27年11月23日)



Shibuya **Hikarie**

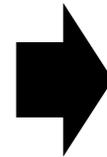
りんごを1玉300円(通常の値段の約3倍)で販売。若者を中心に多数購入された。

主な取組紹介② 「女性の希望がかなう町」の実現に向けて 「仕事と育児の両立に向けた働き方改革に係る社会実験事業」

若い世代が希望どおり結婚し、子育てができるよう仕事と家庭の両立支援の促進を図る。

飯綱町内、長野市内、須坂市内の企業経営者、人事総務担当者等を対象にセミナーを開催（平成28年1月22日）「働き方の見直し」「ワーク・ライフバランス」「ダイバーシティの実現方法」・・・

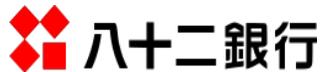
- ・今後も働き方改革を目指す企業を支援（研修等）
- ・職場環境の実情調査等



企業の長時間労働の抑制や休暇の取得促進など働き方を見直し、仕事と生活が両立できる職場環境の整備を図る

狙う効果・未来像

官民協働



直接的な効果として...

- 1: 子育て女性や高齢者もあたりまえに無理なく労働できる
 - 2: 「時間制約つき人材」のモチベーションが最大化し今まで潜在化していた人材が労働市場に出てくる
 - 3: 経営コストだった残業代分を新たな雇用のための投資に使え、現状の企業数のまま雇用が増える
- さらに次のような効果も期待できる
- 4: 出生率があがる
 - 5: うつ・過労死が減る
 - 6: 地域社会の行事を担う人材が増える
 - 7: 介護・育児施設の長時間化が防げる

主な取組紹介③ 子育て支援に向けた体制強化

- ✓ 子育て支援の財源を恒久的に確保するため、
2億円規模の「子育て応援基金」を町に創設。
- ✓ **女性活躍に関する施策は、女性が主導で決める**（男性の論理で決めない）。
→ **半数以上を飯綱町の女性が占める「飯綱町子ども・子育て応援会議委員」**を設置して、
制度設計を検討中。
- ✓ 役場内に**子育て専門の組織**を設置（町民を窓口でたらい回ししない）。

検討会の開催



誕生祝い・入学祝い事業



主な取組紹介④ 地域公共交通の維持・存続

町中心部に集中するサービス拠点への住民の移動手段の維持確保・充実を図るために必要な支援を行い、医療、通勤通学、買い物等への各種サービス利用の確保を図る



- ・ デマンドバス充実実験運行（隔週土曜運行）
- ・ デマンドバス運行システム改修
- ・ 地域公共交通人材育成支援

■ 今後の展開

- ✓ 人口減少に伴い、長野市と結ぶ路線バス（牟礼線）の赤字が続き、存続が危ぶまれる状況（市内の病院や買い物に行く町内の交通弱者にとって切実な問題。）。
- ✓ 飯綱町の北と接する信濃町と、南と接する長野市との間で、町を通過してヤマト運輸が毎日貨物輸送していることが判明。しかも、日中は荷物が極端に少ない。
- ✓ 「モノを運搬するついでに、ヒトを運搬してほしい」とヤマト運輸に打診。
ヒトとモノを一緒に運ぶバスの導入に向け、バス会社と詳細設計を検討中。

主な取組紹介⑤赤東地区・高岡地区活性化プロジェクト

少子高齢化・人口減少が進み、地域の活性化と集落・強化を住民参加と協働により将来像を描き活力ある持続可能な地域づくりを実現する取り組みと活動を展開する

赤東未来創造プロジェクトの設置・集落支援員設置

- ・赤東の魅力をもっと見つけよう(地域資源・魅力ワークショップ)
- ・地元学 地域探訪ワークショップ
- ・赤東地区集落点検アンケート実施
- ・飯山SaWaGoSa視察
- ・赤東の未来を考えるシンポジウム

■今後の取り組み

赤東地区の将来プランの策定【平成28年度】

【高岡地区】

- ・活性化委員会準備会を開催(10月19日)
- ・第一回活性化委員会を開催(1月21日)
- ・今後、活力ある持続可能な地域づくりへ向けての将来プランづくりを進める

赤東地区のまちづくりの方向性・キーワードなど

- ・田舎らしさ 都市近郊農村
- ・第二小学校を核とした「小さな拠点づくり」(公園、親子が集える居場所、地域住民の拠り所等)
- ・美味しい農産物と活性化戦略
- ・赤塩焼の復活と活用
- ・空き家活用、DIY
- ・SNS活用、赤東の今を発信

できることからやる赤東未来創造プロジェクト

- ・赤塩焼復活への取り組み
- ・移住PR動画制作
- ・赤東地区の情報発信
- ・毎月10日は、赤東の日



あかとう堂々

発行/飯綱町役場 企画課 地域振興係

Tel : 026 - 253 - 2511 FAX : 026 - 253 - 5055 E-mail : shinko@town.iizuna.nagano.jp

赤東未来創造プロジェクト 集落支援事務局<赤東コミュニティ消防センター2F>

携帯 : 080 - 7733 - 5627 E-mail : shurakushien@gmail.com



地域全体の良さを共有することが大事 ― 赤東の未来を考えるシンポジウム ―

十二月十三日、「赤東の未来を考えるシンポジウム」が三水第二小学校ランチルームにて開催されました。パネリストに中島恵理長、野原副知事、竹内延彦長野県次世代サポート課企画幹、荒井孝幸赤東区長、馬島敦子赤東未来創造プロジェクト委員長、峯村勝盛飯綱町長を迎え、コーディネーターは小澤勇人飯綱町参与が務め、区内外から七十名近い方々が参加。赤東区の今後の課題や可能性について、それぞれの経験を踏まえた貴重な意見を聞く事ができました。

中島副知事は、自らも田舎暮らしの移住者であることから、子供たちにとって都会生活は過酷であるとし「保育、教育には自然が欠かせない。便利であることより、不便さが生活力を高める。何も無いことが実は必要で、そのメリットを再評価すること」が話され、その良さをどう発信していくか、又は維持、発展していくか、地域全体でそれを考え共有していく事が大事なのではないかと語られました。

竹内企画幹もまた、自然の中で育てたいという人口が増えてきていること、ことから「子育ての環境で人が動く」と話され、二十一年先、三十年先について子供たちを巻き込んで一緒に考えていくことを提言。さらに、「小学校閉校については、街ひとりが無くなるぐらいの重要な課題として、中島副知事同様に「跡地活用については、目先の成果を求めない・急がない・住民参加」を取り組むことが重要で語られました。



貴重な命を いただきます

イノシシ汁で おもてなす

この日、赤東未来創造プロジェクトでは、有害鳥獣指定のイノシシを猟友会から提供していただき、イノシシ汁のふるまいをしました。

コトコトとじっくり煮込まれた肉は、七種の野菜と相まって絶品の味をかもしました。やや小雨交じりの空模様でしたが、食される方皆さん笑顔で、普段食へることのない肉だけに大好評でした。

誕生したばかりの「みつとん」も「役買ってくれて、さうなのまでましたよ。」

話しが尽きず予定の時間をオーバーするほど充実したシンポジウムでした。今後こうした機会を設けていく予定です。是非、赤東区の未来について様々な意見を聞きながら一緒に考えていきましょう。

今後の取組について

ICTを活用した最先端農業技術研究に関する実証実験事業(概要)

農業の担い手・後継者が不足し、耕作放棄地が拡大している現状を改善するため、ICT活用型の農業技術研究及び実証実験を実施。本補正では、早期に効率栽培の確立等の成果につなげるため、先の補正で設置したセンサー等を活用して、**収穫予測等の本格的な研究**、六次産業化、ブランド化、観光促進(インバウンドを含む。)等を進める。

最先端農業研究チーム



信州大学 SHINSHU UNIVERSITY
vegetalia Vegetation Science & Technology
NTT docomo
一般財団法人 長野経済研究所

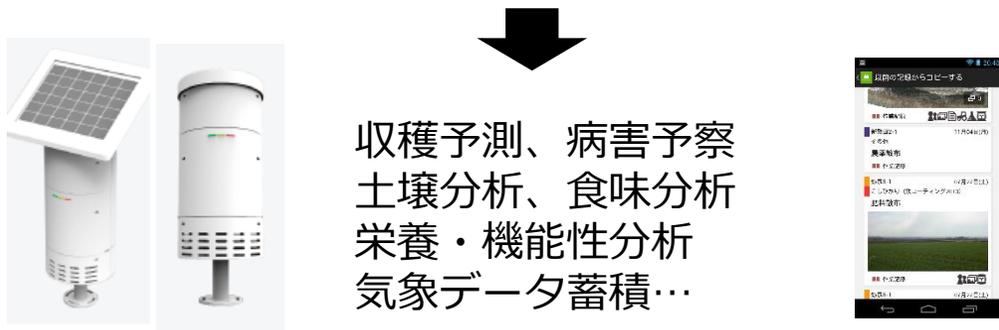
研究を成果へ



六次産業化
CALVADOS

ブランド化
St. Cousair Normandie

観光促進 (インバウンド)
VISA FREE WIFI
八十二銀行 長野信用金庫



収穫予測、病害予察
土壌分析、食味分析
栄養・機能性分析
気象データ蓄積...

農家の所得向上
美しい里山風景の
維持・継承



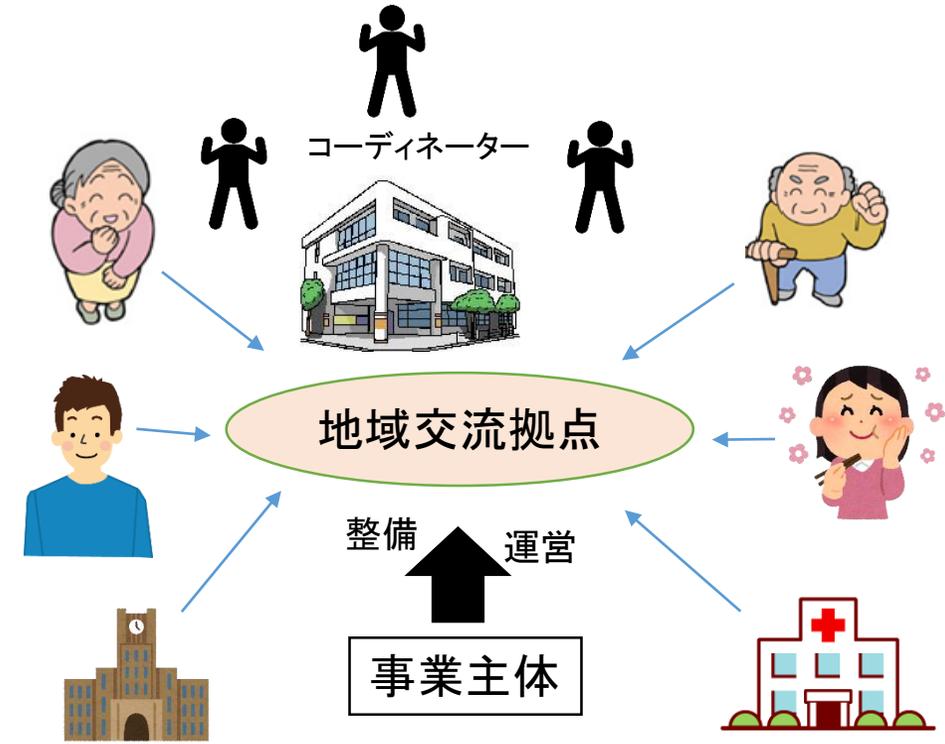
気候変動に対応した適地適作の実践
効率的な栽培方法の確立、食味・栄養アップ

飯綱町総合戦略の基本方針である「町内に住むあらゆる世代が元気に楽しく暮らすことのできる夢と希望にあふれる町」を実現するため、急速に高齢化が進んでいる飯綱町福井団地区(飯綱町版「生涯活躍のまち」のモデル地区)に、高齢者をはじめ、コーディネーター、地域住民、若者や障がい者等が共働し、多世代が交流できる「地域交流拠点」を整備する。

2020年目標 (KPI) ・住民満足度、人口(2,047人(2010年))、平均年齢等を設定

検討事項 ※地域包括ケアシステムと連携

- ①事業主体の選定(社会福祉協議会?)
- ②コーディネーターを複数人配置
= 地域おこし協力隊の募集 又は
生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)の兼務
[主な役割]地域ニーズの収集、イベント・セミナー等開催、
コミュニティビジネス・生きがい創出、人材育成
- ③中古住宅や公共施設等の既存ストックを活用
- ④お試し居住等の移住促進プラン及び住宅環境整備
- ⑤信州大学、北部高校等の教育機関との連携(講座開設、ゼミ連携等)、
飯綱病院等の医療機関との連携
- ⑥社会活動のポイント化(町内商品等と交換可、管理方法等の検討が必要)
- ⑦スキルバンク(ネット等に、自分が「できること」「専門性」を登録)



(例)大工仕事等の専門事項、保育施設までの送迎等のお困りごと助け合い、学生の学習指導

「しごとの学び舎」創設事業（概要）

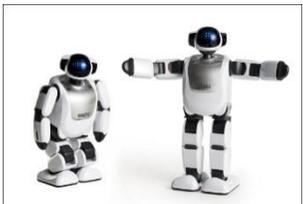
飯綱町を「稼げる地方」とするため、ICTを活用して地理的障壁を軽減しつつ、飯綱町ならではの「しごと」や最先端の「しごと」について学び、都市や多世代の交流促進、創業支援等の核となる拠点（遊休公共財を活用）を整備。

海外情勢の変化やイノベーションが急速に進む今日、「稼ぐ」ためには、世間（海外を含む）でどのような「しごと」が必要とされているのかを知り、その上で自分がどのような「しごと」に関心があるのかを考えられる機会に多く触れることが重要。しかし、飯綱町の若者等は、情報格差のため、その機会が少なく、少しでも多くの情報を得ようと、都会に出てしまう。

➡ 多地域で連携して「しごとの学び舎」検討グループを半官半民で組織。自律的に持続可能なマネタイズ（都会から金を呼ぶ策）の仕組みを確立しつつ、しごと情報等の中立性を確保。

学ぶ

働き方・生き方
働くことに必要な技能
最先端の技術
飯綱町の強み（自然など）



交流

コミュニティ・人脈・出会い
コワーキングスペース
カフェ・レストラン
都市との交流（学校行事、企業研修等の誘致）



創る・行う

創業・事業運営
イベント
ソーシャルイノベーション



信越自然郷 地域連携DMO 創出事業

- ✓ 信越自然郷に属する長野県・新潟県の9市町村の観光団体、商工団体、農業団体、行政担当者等による連携組織（信越自然郷地域連携DMO）を立ち上げ、事業を推進（日本版DMO候補法人申請済）。
- ✓ 誘客宣伝、ツアー企画、プロモーション、特産品開発、インバウンド促進（Wifi整備、案内看板等の多言語対応、ホームページ整備、カード決済支援等）、マーケティングマネジメント等の観光事業を広域で取り組む。



～大自然に生まれ、いのち湧き出る旅がここにある～



やぎ大活躍プロジェクト

やぎ



- ✓ 昭和40年代ごろまで、ほとんどの農家で「やぎ」が飼育されていた。
- ✓ 「やぎ」は田舎の原風景の象徴であり、遊休荒廃地対策になる。
- ✓ 「やぎ」の乳を加工したチーズ開発等に取り組む。
- ✓ 「やぎ」で癒されたい都会の住民をターゲットに、「やぎオーナー制度」（飼育資金を提供するかわりに、やぎ動画やチーズの提供を受ける）を提案したところ、1週間で全国から40件以上の出資希望者から連絡があった。

